

石川地域づくり協会では、能登町の地域づくり団体「木郎（もくろう）活性塾」に訪問してお話を伺いました。

木郎活性塾（能登町）

2021年10月取材

【団体PR】

木郎活性塾は、平成8年不動寺地区住民が小学校の廃校舎を譲り受け、地域住民の交流促進のために廃校舎を活用して催事活動を行っています。

その中でも「水車の里の音楽会」と題した音楽会を24年間にわたって継続開催し、地域住民と地域内外の音楽家との交流による地域の活性化を推進しています。

なお、同団体は、令和2年度の石川県地域づくり表彰の団体部門・大賞を受賞しています。



水車小屋の写真

「水車の里音楽会」という名前は、この地域に水車小屋がたくさんあったことに由来があるそう。

【団体の活動について】

不動寺小学校の廃校舎で年に2回、「水車の里音楽会」という音楽会を24年間一度の中断もなく開催していることが、大きく注目される点です。

「水車の里音楽会」は平成8年、現在、木郎活性塾の代表を務めている新谷信之さんが、廃校になった校舎で地域の

住民向けのイベントができないかと考えていた時、たまたま校舎で弾かれていたギターの音色がとてもよかったことが、音楽会を思いついたきっかけだったそうです。

当初は演奏者が5、6組の小さな音楽会でしたが、活動の輪が広がるにつれ、被災地の陸前高田から演奏家が参加するなど最大12グループ、100人規模の参加者が集まるイベントになりました。

音楽会の演奏者は、地域外で活動しているアーティストだけでなく、地域内のギターを習い始めたばかりの子供たちや、若い時に嗜んでいた楽器を久しぶりに弾くというお年寄りなどと幅広く、だれもが気軽に参加しています。

新谷さん曰く、演奏者が自由に演奏して楽しむ『ゆるい音楽会』をコンセプトとしているとのこと。

演奏者は、どんなに失敗しても、地域のお年寄りたちが温かい拍手でもてなしてくれるので、まるで自分が主人公になった気分が味わえるとか。そのためか、音楽会に参加するためだけに帰省する若者も出てきているようです。

さらに、その若者の中には、Uターンで地元に戻り、地域の子供たちへのギターの指導を通じて、次の世代の音楽会の担い手を育てている方もいらっしゃいます。

【工夫したところ】

24年もの間、音楽会が継続開催されている3つの理由

① 新谷代表の継続的なお世話

代表の新谷さんは、活動当初から継続して団体の代表をされています。地域のほかの活動団体が代替わりごとに衰退しているのを目の当たりにして、長期的に代表を引き受けようと思ったのだそうです。

② 親世代の活動参加

音楽会に参加している子供の親たちも活動に関わってくれています。親は子供たちの成長に伴って入れ替わっていく反面、そのたびにフレッシュな企画を生みだしてくれるため、24年の継続開催でも飽きの来ない音楽会ができています。

③ 温かい交流と居場所

音楽会の出演者は、地域の人たちから、カレー（夏）やおでん（秋）のふるまいがありますが、出演料0でのボランティア参加です。それでも出演者たちに満足感があるのは、地域の人たちとの温かい交流の中で、出演者たちに「居場所がある」と感じさせる雰囲気があるからこそでしょう。

【今後の課題】

今後については、2029年には校舎が100周年を迎えるので、それまで音楽会を継続しながら、校舎を守っていきたいという思いがあるとのこと。

また、昔からこの地域では音楽を愛してきたということも形にして継続していくために、若者が主体的に活動できるシステムを作り、能登町全体に広げていきたい、と語っておられました。

【代表者について】

新谷さんは元小学校の教員だそうです。音楽の専門ではないとのことですが、それでも音楽会をスムーズに開催できたのは、地域で音楽活動をしている人たちとのネットワークがあったからだそうです。

地域づくり活動として音楽会を開催することは、とてもハードルが高いと思ったのですが、「お金をかけず、工夫しながら、自分たちでできることを」をモットーにして、取り組んでいる姿がとても印象的でした。



水車の里音楽会の舞台をバックに、代表の新谷信之さんを撮影。秋の音楽会はここで毎年11月の第3土曜日に開催される。

【団体の連絡先・リンク等】

不動寺公民館 TEL 0768-72-0059

投稿者：運営委員 石田 崇史

【11月24日追記：今年の水車の里音楽会について】

去る11月20日に水車の里音楽会を開催しました。そこでの素敵なエピソードを紹介します。

ユニットの相方が高校受験のため、今回の音楽会に参加するのを断念しなければいけないと考えて相談に来た中1生のYUZUIちゃんを、なんとか舞台に立たせてあげたいと取り組んだのが「水車の里オールスターズ」（音楽会の常連）の面々。YUZUIちゃんが、歌ったことも、聞いたことすらない「500マイル」という歌をうたいませんかと誘い水を投げかけました。

困難なことを乗り越えて自分を表現したいとYUZUIちゃんは何度も繰り返し「500マイル」を聴いて、歌をしっかりと覚え当日やってきました。でも、背中丸く自信のない様子。緊張感が周りにも伝わってきました。それでも、ギターのZASHIKIさんに上手に誘われ、修正点を教えてもらい素直に修正しました。ハモリの声が入ると一気につられそうになりながら、それでも自分の音程を守りました。



11月20日、水車の里音楽会の様子その1

自分以外の、ギター、ブルースハーブ、ツインコーラス、ストリングスの超豪華な応援を得て無事歌い終わりました。

その後、YUZUIちゃんは笑顔と一緒にこう言いました。

「曲名は500マイルだけど、500万円の価値があったかも」

水車の里の音楽会では、なんかこんなエピソードを楽しみながら開催しています。

次回は6月第4土曜日（2022年6月25日）の開催を予定しています。



11月20日、水車の里音楽会の様子その2